

平成 25 年度 第 3 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 25 年 10 月 30 日（水）午後 2 時～午後 4 時

◇場所：本庁舎地階 第 7・第 8 会議室

◇出席委員：12 名（欠席 2 名）

◇議事内容

1 開 会

2 経過報告

平成 26 年度市民提案型協働事業について・・・別紙 1

3 協議

(1) 市民協働のまちづくりフォーラムについて・・・別紙 2

(2) 市民協働のまちづくり連続講座について・・・別紙 3

◇主な意見（○：委員の発言，●：事務局の発言）

3 協議

(1) 市民協働のまちづくりフォーラムについて

●テーマの変更について

○：テーマ（案）の⑥は参加する方が作っていくという感じがする。

「実はあった」とか「知らない」とかを入れると、知っていることも多いと思うので、どうなのか。改めて一緒に作っていく、というような形がいいのではないか。

○：「おいしい！三原」の下にさらにサブタイトルで「おいしい」が入ると目がちらちらするので、サブタイトルに「おいしい」「おいしい」は避けたほうがいいのではないか。

○：あなたの作る、と言うとプレッシャーがかかるのではないか。

○：⑩がすっきりしていていいのではないか。

○：ここにはないが、「あなたの作る未来の三原」というのはどうか。

○：⑩がいいと思う。三原にはこれだけ魅力がありますよということを事例発表で見つけてもらう。「魅力」という単語が最後にあったほうがいい。

○：⑩がいいと思う。

○：知ろう！探そう！の順番がいいのではないか。事例発表を聞いて知ってもらって、そして自分たちの周りで探していってもらおう。あまり意味が通じないようなものより、いいのではないか。

○：それでは、⑩で単語の順番を入れ替え、「おいしい！三原～知ろう！探そう！まちの魅力～」でよろしいですか。

○：異議なし。

●チラシについて

○：駐車場についての記載はないのか。生涯学習センターの駐車場だけで足りるのか。小学校のグラウンドを借りたほうがいいのではないか。

○：小学校は翌日にとんどもがあるためグラウンドは使用できないと思う。

- ：小学校は借りられないということなので、本郷支所の駐車場を借りるようになる。
- ：会場が分かる地図は入れないのか。支所と生涯学習センターの位置関係が分かる地図を入れたほうがいいのか。また、駐車場の収容台数もあったほうがいいのか。
- ：駐車場の記載については、地図も含めて検討する。
- ：手話通訳の表記は、「入場無料・申込不要」の記載とは別にしたほうがいいのか。
- ：そのように業者に相談する。

(2) 市民協働のまちづくり連続講座について

- ：開催時間はこれでいいと思う。冬で雪が降っても出てこられる。
- ；参加は申込み形式なのか。
- ：昨年度と同じく申込み形式にする予定。
- ：参加される方の交流は考えているか。ただ話を聞いて帰るだけではもったいないので、つながるような仕掛けがいるのでは。
- ：講座で話を聞くのみで2時間というのは難しいと思う。
- ：話を聞く時間とワークをする時間があればいいのではと考えている。
- ：講師と事前に話をしてほしい。受講した人が帰ってどうするかがポイントで、そこを考えないといけない。相互に交流ができるような種まきをして、輪を広げることが必要。
- ：申込みがあるのなら、地域で問題になっていることや講師に質問したいことなどを、申込みの時点で参加者に書いてもらえるのではないかな。
- ：質疑応答の時間は当然あると思うが。
- ：事前に質問をしておいて講師の方に伝えておけばいいのではないかな。
- ：事前に質問事項などを書いてもらうことは可能。質疑応答の時間はある。次回の委員会で申込み用のちらしについてご協議いただきたい。質問を書いてもらって、それがどの講師に当てはまる質問になるかは分からないが、ひとまず全員に見てもらえるように検討する。フォーラムに続いて行うので、フォーラム会場で回収してもいいのではと考えている。
- ：昨年度の連続講座のアンケートにあった感想などをどこかに公開しているのか。市民へ出せばいいのではないかな。そうやって還元していくことが大事なのでは。ボランティアセンターで、こういうことをやったという記事を便りなどで出してもらってもいいと思う。
- ：例えば、参加された方で実践する人もいるので、半年くらいしてから、どう活かされているのか、成果を調べてもいいのではないかな。
- ：市広報などにそういったことを載せればいいのではないかな。
- ：全ての講座で、どこまで技術や能力を上げていくのか、こちらがイメージを持っておかないといけないのではないかな。講座3のちらし作りに関しては、作り方が理解できるというのは、実際にワードレベルなのか、ソフトを使うのかで大きく内容や使い方が変わってくる。そうするとこの講師でベストなのか。どこまで求めていくのか。
- ：具体的な目標として、○○ができるようになる、というのはあるほうが良い。
- ：ワードが使えないと作れないというのではなく、ソフトを使うにしろ手書きにしろ、チラシの作り方の基本的なところ、どこに何を置くかというポジションのことなどを学んでもらえればと思っている。個々のスキルがもともとバラバラであるので、その能力が上がっ

たか、下がったか、というのは測れない。講師には、参加する方のレベルに合わせてやってもらうよう、これから打ち合わせをしていく。

- ：パソコンを使うものだけではなく、チラシにはいろいろある。どのような作り方をしてもポイントというものはあるので、それを教えてもらう。少しでも多くの人に来てほしいと思っている。事前の申込みの際に、どこが聞きたいかを質問して、全てではなくとも、答えることはできるようにする。
- ：実際に作っているチラシを持ってきてもらうのか。
- ：それが良いとは思いますが、全ては難しい。
- ：実際の事例を出して、AチラシがBチラシになったというように示すとわかりやすいのではないか。
- ：ターゲットで内容は変わると思う。この話は、ボランティア団体などには関係あるが、コミュニティ組織など地域ではそんなにやらない。それよりも、町内会長になっても人の前で話すことのできない人が多い。リーダーが引っ張っていけば良いと言っても、魅力がないとできない。
- ：呼びかけただけだと、大和は来てくれない。ある程度指名しないと今のボランティアで活動をしている人と、一般住民では差があると思う。中身を地域にするとか、ボランティア団体にするとか、リーダーを育てるなら絞らないと、風呂敷を広げただけでは成果を出すのが難しいのでは。
- ：回数があるなら、人を育てるところをやるべきではないか。チラシを作るにしても、地域という枠組みだと団体の中でできる人がやるし、伝えたいことを文章のみで作成することで足りる。また、配る範囲が広くなれば業者に出すことになる。これだとチラシ作りについては、特定の人しか興味を持たないし、特定の人だったら、逆に、レベルが低いと途中で帰ってしまうのではないか。
- ：「0」の人が対象なのか、「1」の人が対象なのか。Aさんが「1」から「5」になることを期待するのか、Aさんが3回ある講座に1回だけ参加することがいいのか、1～3回目まで参加して「1」から「5」になるのか。「0」の人が来ることも考えるなら、変にテーマを変えないほうがよいのではないか。
- ：講座1, 2, 3と連続にすると、3は幅が広い。1, 2は地域で3は団体で、3になって団体が入ってくる。3も地域にするのか。町内会の資料というときほどのものはないと思う。
- ：テキスト情報だけだと読みづらい。視覚的にぱっと見て分かるように教えてもらえればいいのでは。地域コミュニティにとって有益だと思う。
- ：そういうふうになればつながっていくのではないか。1回目でコミュニティについて、2回目でリーダーとしての話し方、3回目で視覚的なものというような。
- ：第3回の説明の部分の「団体」をとればいいのではないか。
- ：これは委員会での資料なので、次回チラシを作るときは、地域コミュニティ活動という形になるよう検討する。今の流れで、申込みされた方に第3回はこちらから1回手紙を出してみるということにすれば良いのではないかと考えていたが、地域コミュニティを対象にするのであれば、そこまではしなくても良いかと思っている。あまり狭めないようにしつ

つ作らなければいけないのではないかと思う。

リーダーとなる人への講座は、リーダーシップ講座などとすると、参加される方が少なくなると思う。そういうところまでまだ伸びておらず、敷居が高い。地域活性化の中でやっているのだから、地域の中でのチラシをやれば良いのではないかと考えている。

- ：対象者について、第1回も在り方について試行錯誤した中でどうすれば良いのか。改めてコミュニティのことも言われても、分かっている、と思う人もいる。逆に「0」の人は敷居が高くて来られない。
- ：対象の定め方も変えていかないといけないと思っている。平成19年度にはこれでよかった。状況がある程度変わってきている。ターゲットを定めてどこへ成果を定めるかきちつと決めて、内容を詰めていく段階かと思う。従来どおり、協働への関心がどうなってきたか分からない中で「私もやってみようかな」と思った人に来てもらうことも考えていかなければならない。
- ：別紙3の趣旨は、イコール目的だと思う。地域コミュニティにはこういう課題がある、ということ。これでいくなら、その目的に合致した内容のものをしていく。ただ、縦軸横軸がある。縦軸は地域コミュニティ、横軸は市民活動団体。横軸がどれくらいの割合なのか。三原の現状はどうかということ踏まえて講座をしないと、とってつけたようなことをしても仕方がない。ニーズの把握をすることが必要だと思う。
- ：この講座の趣旨をおさえてみると、講座に参加することで連帯感が下がっているから町内会の加入率を上げようとか、地域で何かしようという動きがでてくるようになれば良いのではないかと。講座1に関しては、まちづくりビジョンもやっておられるような講師なので、すでに知っておられる方でも無関心層でも関心を持つような話をさせていただくことができるので良いのではないかと。成果としては、町内会に加入する人が増えたとか、そう考えるといいのではないかと。講座2に関しては、リーダーとして地域をまとめる時に困っている人とか、コミュニケーションをとるのに関心のある人が参加できる。講座3に関しては、発信力が弱いのはどこでも言われていることで、広報担当の方などが参加できるもので良いのではないかと。趣旨・手段・成果のつながりはあるので、どういう人に声をかけたいか、反対というよりも今の話の流れは、確認の議論だったと思う。講座3については、チラシのデザインというよりは、広報の戦略論で、5W1Hを考えないと伝えられないとか、ターゲット論、マーケティング論をうまく地域や団体にアレンジできると思う。講師には、対象者について、そのあたりをうまく伝えれば良いのではないかと。
- ：講座1～3の流れが分かりやすいなと思った。講座1は「0」の人でもいいということだと思う。
- ：松井先生の場合は、参加した人の対象にあった話をその場でしてくれる。
- ：講座3だけは少し違うので、How to ものではなくて、広報戦略というのをテーマにした方がいいのではないかと。町内会で回ってくる回覧板も、見にくいものが多い。
- ：町内会だよりも、読まない人は読まないのだから、どうやったらいいのかというポイントを知りたい。

閉会